

[抄録様式]

<p>財団法人 8020 推進財団 平成 21 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：成人期ブラッシング行動スキル評価事業</p>
<p>2. 申請者名：(社)福岡県歯科医師会 会長 秋山 治夫 担当：地域保健部長 今里 憲弘</p>
<p>3. 実施組織：(社)福岡県歯科医師会 分析：福岡歯科大学口腔保健学講座 山本 未陶</p>
<p>4. 事業の概要： 福岡県歯科医師会は平成 13 年度より、8020 運動推進事業の一環として、11 月 7 日、8 日を中心とした週間を「いいな、いい歯」週間とし、県民に対して歯科保健の重要性を広く啓発するための事業を実施している。 今回は、「いいな、いい歯」週間を通して県民のブラッシング行動をアンケート調査し、成人期のブラッシング行動を評価するブラッシング行動スキル尺度を開発したので報告する。</p>
<p>5. 事業の内容： 福岡県歯科医師会地域保健部部員 12 名の各診療所を受診した対象者 129 名（男性 44 名、女性 85 名）に対して事前の予備調査を行い、「いいな、いい歯」週間に実施する調査項目の検討、評価を行った。これに基づき簡略型の調査紙（16 項目のアンケート）を作成し、歯科保健大会、街頭啓発、公開フォーラム等においてアンケート調査を実施した。 <b>【属性】</b> 有効回答数は 632 名（男性 184 名、女性 448 名）、回答者の年齢は 20～86 歳（平均 49.4±15.7）であった。20 歳から 40 歳、41 歳から 60 歳、61 歳以上の 3 群に分けたところ、男女比は年齢群によらずほぼ 3：7 で女性が多かった。 <b>【質問票の結果】</b> 質問票 16 項目を合計した得点は年齢層が上がるごとに増加していた。年齢層に分けない年齢と質問票得点の相関は、<math>r = -0.46</math>、<math>p &lt; 0.01</math> で有意であった。16 項目で質問票の信頼性は十分であった（クロンバックの信頼係数 <math>\alpha = 0.87</math>）。設問の 1 から 16 の回答傾向を 1 項目ずつ検討したところ、性別による差が 13 項目にみられた。女性の方が良好な結果を示した。年齢層による差も 13 項目にみられ、高齢者ほど良好な結果を示した。 <b>【まとめ】</b> 高橋らの一般性自己管理スキルの報告は、年齢が上がるごとに尺度得点が上がるとされている。今回、予備調査を通じて作成した成人期ブラッシング行動スキル尺度も、年齢が上がるごとに得点の上昇が確認された。結果は、質問票 16 項目を 4 因子（1：歯科疾患への対処態度 2：丁寧なブラッシング 3：歯科保健行動の計画性 4：補助具の使用）に分けることができた。この 4 因子を基準に成人期のブラッシング行動スキルを一定評価することができる（尺度の開発）。また、今回の目的でもある歯科保健啓発のポイントとしては、高齢者（61 歳～86 歳）、女性ほど歯科保健行動がとれていることが確認されたが、さらに具体的には歯周病の予防に重要な「4：補助具の使用」が特に成人男性で低調であることが確認されたことにより、デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助具の使用を前面に出した啓発を行うことが重要である。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）： 平成 22 年度以降の「いいな、いい歯」週間事業において、成人男性に歯間清掃補助具の使用をどのように保健行動として定着させるのかが今後の重点課題である。</p>